書名	カラフル	出版年(西暦)	1998 年
著者･編者	森　絵都（もり　えと）	出版社	理論社
学部・研究科	理学部・学際理学コース	学年	３年

黄色い背表紙。なのに本のタイトルは「カラフル」。そんな矛盾した小説をある友達から紹介してもらった。何でも、自分、他人について考えさせられる小説なのだそうだ。読んだ後に分かったことなのだが、この本は 2000 年に映画として全国に上映されていた。
本を借りたその日の夜、さっそく１ページ目をめくってみる。
死んだはずの「ぼく」の魂にむかって、天使が言った。「おめでとうございます！あなたは抽選に当たりました！」
ここからこの小説の全てが始まった。話の背景は、ある中学生の男子とその子の学校、家族、好きな女の子と…一般的な涙をそそる恋愛小説かと思った。しかし、恋愛小説ではなく、読んでいくにつれて、複雑だが身近に感じるそのストーリーに引き込まれていく…
ある場面でその中学生の男子が、好きな女の子を慰めようと、こう言った。
「この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはいつも迷ってる。どれがほんとの色だかわからなくて。どれが自分の色だかわからなくて…」
この文章が出てきた時、その本に対するイメージが変わり、自分の中の、人や物に対する価値観が揺れ動いた。この世の中の人や物、イメージにはそれぞれに色がある。僕らは自分でそれらの色だと思っている色を勝手に決め込んでいる。でも時々、些細なことで気付くことがある。それは黒だと思っていたものが白だった…なんて単純なことではなく、たった一色だと思っていたものがよく見るとじつにいろんな色を秘めていた。

今、自分の周りの人間関係に悩んでいる方、自分の好きなこと、したいことが分からない人、また面白い小説をお探しの方にこの本を薦めます。自分の人や物、または自分に対する見方が変わるキッカケとなってくると思います。